

埼玉県の腸管出血性大腸菌検出状況(2012.9.11 現在)

埼玉県で分離され衛生研究所で確認した腸管出血性大腸菌は、2012年9月11日現在で58株です。感染者の内訳で見ると下痢・腹痛などの症状を呈した有症状者から分離されたのが38株、業態者検便や接触者検便での無症状者からの分離が20株でした。発症日で見えた月別の分離数では、1月から5月まで5株でしたが、6月に12株、7月に21株、8月に20株と分離株数が増加しています。高温多湿など腸管感染症の発生しやすい状況が今後も続くことから注意が必要です。分離されている血清型を表に示しました。O血清型で見ると例年通りO157が38株と最も多く、次いでO26が14株でした。

分離された腸管出血性大腸菌の血清型と毒素型(2012.9.11 現在)

血清型	毒素型	検出数
O157:H7	VT1&2	14
O157:H 検査中	VT1&2	3
O157:H7	VT2	10
O157:H 検査中	VT2	1
O157:H -	VT1&2	4
O157:H -	VT2	6
O26:H11	VT1	14
O91:H -	VT1	1
O121:H19	VT2	1
O145:H -	VT1	1
O165:HUT	VT1&2	1
O 検査中:H19	VT1&2	1
OUT:H -	VT1	1
合計		58

県内では、6月以降患者届出数の多い状況が続いており、県外では大規模な集団感染事例の報道もあります。衛生研究所では、届出のあった患者間の関連を調査するため、検出された菌株の解析を行っています。今後とも、菌株提供へのご協力をお願いします。